



編集長「まめこ」の  
『まめまめ放浪記』

『家具へ込める思い』 久留 聡 HAND WORKS FACTORY

段造りの「ネストツール」は、椅子にもなるし机にもなる。あれも「一番小さな椅子の座面は、ペーパーコード編みになっている。あたりが柔らかい。写真のモデルは、つくられた久留さんのお嬢さんが遊んでいるのは、「ひいふみ」という名の玩具。



- 1/ 『おさんぽ犬』は、引っ張るとしっぽを左右に振りながら付いてきます！プレゼント用に、お名前の焼印サービスも行ってくださるそうです。「H.W.F.」で購入出来ます。
- 2/ 『ネストツール』は、こんな風に重ねて置けるから便利！「H.W.F.」で購入出来ます。

前回号で取材したケーキ屋『パティスリー ジュードゥ ミュゲ』さんの紹介で『HAND WORKS FACTORY (H.W.F.)』さんを訪ねました。

永く使える商品とは、高い品質・機能・デザインが必要と言われます。私達の工房では木製家具を製作しており、無垢の木材で木組みをし、天然のオイルで塗装しています。木組みでは、シェーカー家具に見られるヒンの併用(木組みに別方向から細いヒンを差し、動かないようにする方法)、天板固定に伝統工芸の送り寄せ蟻巣を採用するなど、品質を上げるためには、技術をどんどん取り入れていきます。また仕上げに塗るオイルには、天然植物油3種を用途や工程に合わせてブレンドし、重ね塗り(天板などは5回以上)を施しています。

機能においては、使い手の方による生活の様々なシーンでの使い方を具体的に考え、使い回しできる事を念頭に置いて作っています。子供から大人まで使えるネストツールや、親子で一緒に触れ合える歯固め用の玩具も、様々に楽しく使っていただけではないでしょうか。また見せる置き方もできるように、木組みや背中側まで丁寧に作ったレターケースなどもあります。デザインは、シンプルでオーソドックス、無垢の木製であることを見せた、じんわりと存在感のある雰囲気することを心掛けています。

定番商品については、名の知れたショップの厳しい目に見て貰うことで、品質や機能・デザインを追求していき、また県の工業センターで強度試験を行うことで、客観性を持って商品を見詰め本物を目指しています。更には、しっかりした良い木製品を普段使いの道具として永く使っていただけるように、正確な治具(製作の為の専用道具)を積極的に作り、生産体制を整え、価格を抑えるように工夫しました。

私達は家具を通して、お客様と『物を大事に扱う心』を交換していると思います。そのような物や思いに囲まれた生活こそ、豊かだと信じております。道具として使い込む程に、使い手の方の気持ちに添って、愛着の増す家具。丁寧に作った家具は、お客様も丁寧に扱って下さり、寄り添う存在になっていくのだと思います。無垢の木製品に向いている手仕事の技も取り入れた、清々しいデザインと手に触れる木の気持ち良さを活かして、これからも製作していきたいと思っております。

今回モデルで大活躍してくれた、久留さんのお子さん方。ありがとうね！



come here!



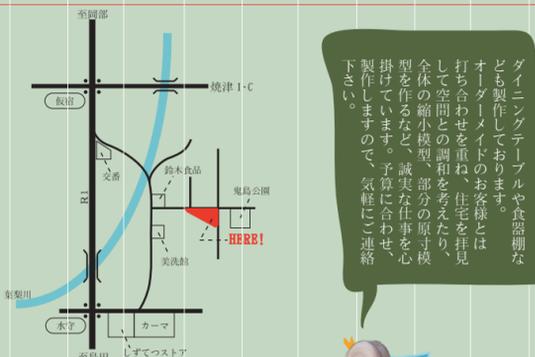
しっかりした良い木製品を、  
普段使いの道具として  
永く使っていただきたいです。



「ひいふみ」は工夫次第で様々な遊具事ができます。口に入れても安心な無塗装です。「H.W.F.」で購入可能。送料別(税込)。



「ミニ」オリジナル商品(「ミニ」)で購入可能。上、優しい雰囲気の丸木ツール。下、北欧の家具を思わせるシンプルなデザイン。見えない部分も藏した構造になっている。



『HAND WORKS FACTORY』  
TEL: 054-251-8700  
FAX: 054-635-4111  
HP: http://hwf05.exblog.jp/

H.W.F.商品取扱店(掲載商品の一部を販売)  
「つり」 藤枝市前島2-8-1 TEL: 054-635-4111  
「つり」 静岡市葵区鷹匠1-4-12 1F  
TEL: 054-251-8700



工房に入り、まず目に飛び込んできたのはシンプルで機能的な椅子やレターケースの数々だった。あつ懐かしいな...と思ったのは『丸ツール』。おばあちゃんちにあつたあつあつなるほどなあ...と思ったのは「ネストツール」。ちっちゃな椅子・中ぐらいの椅子・大きい椅子が階段状になっていて、踏み台にもなるし、子供の椅子と机にピッタリだ。そして思わず手にとってしまったのが、「ひいふみ」と名前がついた玩具。なんだろう、この形、この触り心地。「おしゃぶり」として作られたと聞き、子供達はこの玩具を手にして、どんなことを確かめ膨らませるのだろうかと思った。

「必要以上のことはしたくないんです。構造的にしっかりしていて、無駄のないシンプルな木組みの家具を作りたい。普段使いの日常用品が、いいと思うんです。」  
『HAND WORKS FACTORY』の久留聡さんが語った。ただ座るだけでなく様々な使いまわしができる家具の方が、大人も子供も同時に使え長く残っていく。余計なデザインは、それを阻むからいらぬ。そんな久留さんの気持ちから、作っている家具から伝わってくるように思った。久留さんと話をしていると、なぜか話が膨らんで違う方向へと進んでいく。家具を作る話が、次第に「もの作り」の話へと移っていった。

「良いものを作るって、コンピュータによる正確な図面だけで完成するのではなく、現実の様々な条件の中で、変更・調整しながら収めていく。だから現場や伝統から学ぶことが大切なんじゃないかなあ...」  
...そういえば大工さんが言っていたんですが、サイン・コサイン・タンジエントっていう計算を知らなくとも、差し金一本で今までやってきたんです。これって、今のお話に似ているように思いますが...

「なるほど！そうですね。そんな計算式を知らなくとも、差し金には昔からの知恵が詰っていて、現場の実践から学んできたんですね。すごいなあ...。現実の世界には色々なことが関係していて、例えば一本一本違う木のクセを見る事も、人間の感覚や経験が必要になるんじゃないかなあ...」  
...生身の木と向き合うのは、やっぱり生身の人間なんですね。

「合板で家具を作れば、クセはないから大量生産することが出来ます。木組みの家具は大量に作れないけれど、長持ちするし、使い込んでいくうちに愛着が湧いてくる。でも価格が高くては日常品になりませんから、量産できるように工夫をしていっています。」



丁寧に治具の説明をしてくれる久留さん。

そういつ、久留さんは「治具」という家具の納まり部分の型枠のようなものを見せってくれた。治具を使えば、より精度が高くなり、無駄を省いて一定の加工をすることが出来る。  
「デザインはベーシックにし、納まり方を工夫して、よいものを気軽に身近に置いてもらえるようにしたいと思っています。」  
日々、細かなところまで追求されている姿が想像できた。こんな風に扱ってもらえる家具は幸せだろ。そしてこの家具を使う人たちが、きつと温かな気持ちになるのではないだろうか。  
久留さんと話をしていると...真摯にものを作る人の輪が、そして良いものを選ぶ人の輪が、これから広がっていくように感じた。(文/コロポまめこ)